

市長と語るう地域懇談会 記録

【日 時】平成26年10月28日(火)午後6時30分～8時30分

【会 場】鳥沼会館

【対象地域】鳥沼、大沼

【出席者】22人

担当部	意見・要望などの要旨	回答の要旨
教育委員会	<p>少子化の問題は先行きが不安なことが要因ではないか。自分は、5人いるが、3人目から4人目の間が10年空いていて、ふん切りがついた。子どもを育てるには、経済的な面の充実が必要だと思う。</p> <p>教育の面では、高い教育を地方でも受けられるようにしてほしい。行政として、コストがかかる部分に取り組んでほしい。</p> <p>この少子化の問題は、核家族化が原因ではないか。母親がパートに出たくても、見てくれる人がいない。預けたり、学習塾などにはお金がかかる。</p>	<p>【市長】()について)子育て・教育の面において、環境を整備していくことが重要である。現在、成長が十分ではないと見なされている児童が市内小学校で300人ほどおり、それを加配の先生が見ている。核家族化の問題をどう解消していくか、子どもを療育できる環境をどう作っていくか考えていかなければいけないと思っている。</p>
保健福祉部	<p>夫婦が共働きの人の保育料はいくらぐらいか。</p>	<p>【保健福祉部長】所得の高い人は9万円ほど。所得の少ない人は1万円ほどで、所得によって保育料を負担していただいている。</p>
保健福祉部	<p>子育て環境の問題は、所得が重要。補助などがあれば良い。預かる時間、送迎、入所定員などの課題を解消する状況をつくってほしい。</p>	<p>【市長】どのような子育てサポートができるか考えていかなければならない。富良野が先進的な事例をつくっていきたい。</p>
経済部	<p>農家の嫁も農家の労働力である。労働力の確保について長期的な手助けが必要。育休も一般企業は担保されていない。育休のとれる地域社会にしていってほしい。</p>	<p>【市長】高齢者で働いていない人が数多くいる。その人たちを農業の労働力にできないか、現在調査している。</p>

保健福祉部	ファミリー・サポート・センターについて、例えば鳥沼会館で預かるといった場合に、資格などは必要ないのか。	【保健福祉部長】あくまでも個人が預かる制度。子どもを預かる「提供会員」には、研修の受講が義務付けられている。
商工観光室	お金を稼げないと移住には結びつかない。企業誘致をしてほしい。災害が少ない地域なのでデータセンターはどうか。また、プログラマーなど、地方でもお金を稼げる人材を育成する環境を整えてはどうか。	【市長】貴重な意見。企業誘致については取り組んでいるが、輸送コストがかかる面など、厳しい状況である。光ファイバーの整備を進めて、そういった人材を誘致していきたい。
教育委員会 保健福祉部	お金がかかるのは、大学への進学。医大だけでなく、どこの大学でも対象にしてはどうか。 国の子寮の子どもたちの入所年齢を引き上げ、富良野に就職させるような働きかけはできないか。	【市長】財政が潤沢であれば良いが、誰でも彼でもというわけにはいかない。制度の目的を明確にした上で、整備していきたい。国の子寮の関係については制度上、入所年齢制限を引き上げるのは困難だが、施設を出て富良野に就労するのは可能である。
経済部	移住して15年。アウトドアガイドや建築業を経て、新規就農した。農業のイメージが、儲からないとかつらいといったイメージがある。やりたい人はいると思うので、ビジネスとしてやれるというアピールをすることと、新規就農のハードルを下げるようなことが必要ではないか。	【経済部長】今年開設する「農業担い手育成センター」において、地域と連携し、研修期間から経営が安定するまでの間のサポートを一元的にやっていきたいと考えている。新規参入については、まずはミニトマトに限定し、初期投資を抑え経営の安定化を図っていきたい。
教育委員会	倒木処理について対応していただき感謝。引き続きタイムリーな対応をお願いしたい。 教員住宅が老朽化していることで、子育て世代が地域に住まない。地域に住んでもらえるような環境をつくってほしい。地域と学校が一緒にやってきた地域なので、これからも一丸となってやっていきたい。	【教育部長】教員の方々には、地域に住むようお願いはしているが、家庭環境もあり難しい状況。行政として努力はしていく。地域としても歓迎してもらいたい。 【市長】道の教育委員会で指針が必要。道の教育委員会に対して要望していきたい。
保健福祉部	子どもを増やすのは、なかなか難しい問題なので、今いる子どもたちをどう大切に育てていくか、どうやったら地元に戻ってくる	【保健福祉部長】「依頼会員」と「提供会員」の交流の場を設け、信頼関係を高めていきたいと考えている。

<p>商工観光室</p>	<p>のか考えていかなければいけない。冬場の雇用対策など、通年で働ける環境をつくっていかないといけないと思う。 ファミリー・サポート・センターについて、「依頼会員」と「提供会員」の信頼関係をつくっていくのか。</p> <p>6次産業化について、美瑛で乾燥したトウモロコシや小豆を食べたことがある。野菜を乾燥させたり、冷凍させたものを商品化してはどうか。</p>	<p>【市長】冬の雇用の場の確保について、近い将来、衛生ごみを固形燃料化して、農業のビニールハウスに使えるようにしていきたい。そうなれば、冬にも農業ができ、雇用の場が生まれると考えている。また、6次産業化や企業参入など、意欲のある方々を支援する状況をつくってきたい。</p> <p>【商工観光室長】JAふらののは、実は先端を行っている。企業に対する支援制度を数年前に設けており、中心市街地に15店が出店した。今後も知恵を出し合いながらやっていきたい。</p> <p>【市長】富良野のスイートコーンは非常に評判が良く、某有名ホテルでスープとして出している。ただ、限られた期間しか出せず、それを通年で出していければ良いのではないかとJAふらのなどと連携して、外国に売り込んでいけないか検討している。みなさんからも知恵を貸していただきたい。</p>
<p>経済部</p>	<p>国や道の農業予算はいっぱいあるけど、締め付けが厳しくて、返還していると聞いた。その締め付けを緩めて、地域にお金を回せないか。実際、どのくらいの予算を返還しているのか。</p>	<p>【経済部長】基本的に市や農協の判断で補助金を戻すということはない。補助金については、その条件にあったものでなければ採択されない。</p>
<p>経済部</p>	<p>担い手育成センターについて、ミニトマトに限定するのではなく柔軟に対応してはどうか。また一農家に貼り付けて年間通して働かせてはどうか。</p>	<p>【経済部長】担い手育成センターの基本的な考え方について、雇用就農、体験も含めて使ってもらう施設だが、新規就農は年間2組を考えている。住居は元農業高校の教員住宅を貸し、1年目は農作業ヘルパー、2年目は農家で研修、3年目は担い手育成センターの土地で作物をつくり、4年目は実際に就農するところで作物をつくるという流れになっている。また、先に就農地を担い手育成センターで確保し、円滑な就農に結び付けていく。そういった中で、作物づくり、農家経営について学んでもらおうと考えており、そういったことを踏まえ、ミニトマト2組と考えている。</p>

経済部	新聞で見たが、新規就農前の研修の段階で年間150万円を5年間、新規就農したら年間1,000万円の補助があると見たが本当か。	【経済部長】新規就農前、年間150万円を2年間と新規就農後、年間150万円を5年間補助するという国の制度がある。合計すると1,050万円になるので、その制度のことでないだろうか。しかし、この制度は一定の農業所得に満たない場合の補助である。
-----	---	---